



Suigarayama_OoazaEngland (南川優子 Yuko Minamikawa)

2016-07-31

Navigation

[Previous 月](#)

[Next 月](#)

[Today](#)

[Archives](#)

[Admin Area](#)

Categories

[All](#)
[General](#)

灰皿町の本

• [幻想小説『なめくじキーホルダー』清水鱗造](#)

• [「週刊読書人」詩評一九九二-一九九三年 清水鱗造批評集 第一分冊](#)

Search

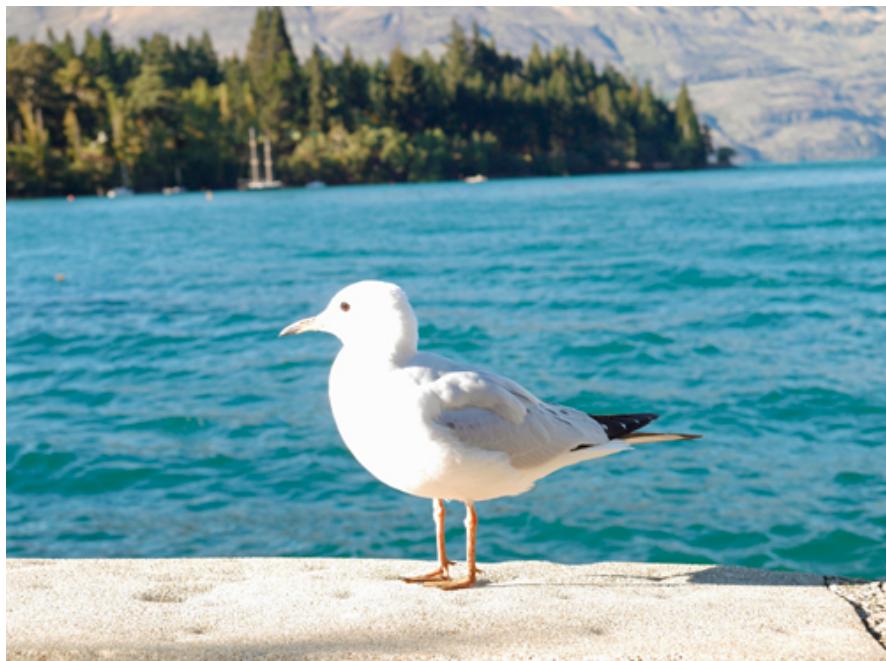
検索キーワード

検索

ニュージーランド (21) クイーンズタウンからレイク・テカポまで
前日のツアーで疲れ気味だったが、この日はクイーンズタウンを去る日だったので、朝のうちに町中をぶらついた。そこでなんと、ディクシー書店を発見...ではなく、黒猫書店 ([The Black Cat Bookshop](#)) だった。小さなショッピング・センターの中にある。残念ながらこの日は日曜日だったので閉まっていた。どうやら古本を主に扱っている店らしい。旅の間、夫の友人が我が家に泊まり、ディクシーの世話も引き受けてくれた。何度かメールのやりとりをし、ディクシーが元気なことを伝えられるたびにほっとしていた。ペットがいると、旅は楽しいばかりではない。



ワカティップ湖。



Login

ログインID:

パスワード:

このPCを他の
人と共用する

ログイン

Powered by





一昨晩食事をした「ビア・カフェ」。



クイーンズタウンを出発し、次の目的地レイク・テカポに向かう。目的地に近づいていくと、こんな色の湖をいくつか見る。



レイク・テカポ到着。



05:05:53 - yuko - 2 comments

2016-07-27

ニュージーランド (20) ミルフォード・サウンド

ミルフォード・サウンド (Milford Sound) のSoundは、辞書では「海峡」や「入り江」などの訳語が付いているが、ミルフォード・サウンドの岩の斜面は、氷河の重みに削られてできた地形で、実際にはサウンドではなく、ノルウェーにあるようなフィヨルドなのだそうだ。中国の桂林で川下りをしたときのことを思い出したが、桂林の岩は尖っていて、そちらはカルスト地形なのだそう。

奥の青いほうの船に乗る。



滝のそばまで船が近づくと、水しぶきがかかる。

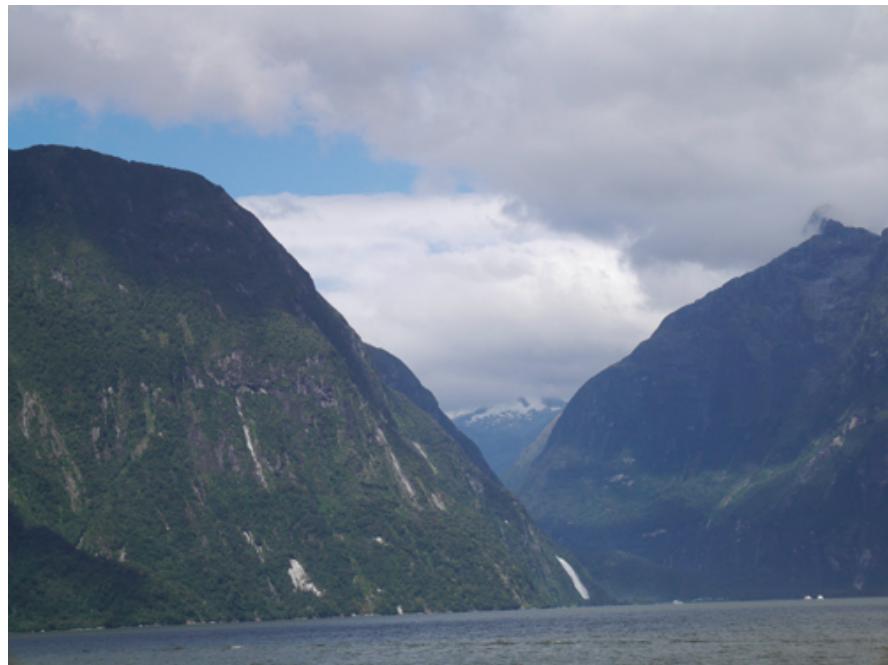




アザラシたち。



岩の合間に後方に見えるのは氷河。



ミルフォード・サウンド方面に行くには、ホーマー・トンネル (Homer Tunnel) を通らなければいけない。往路で通ったとき真っ暗だったので怖かった。復路で写真を撮ってみた。

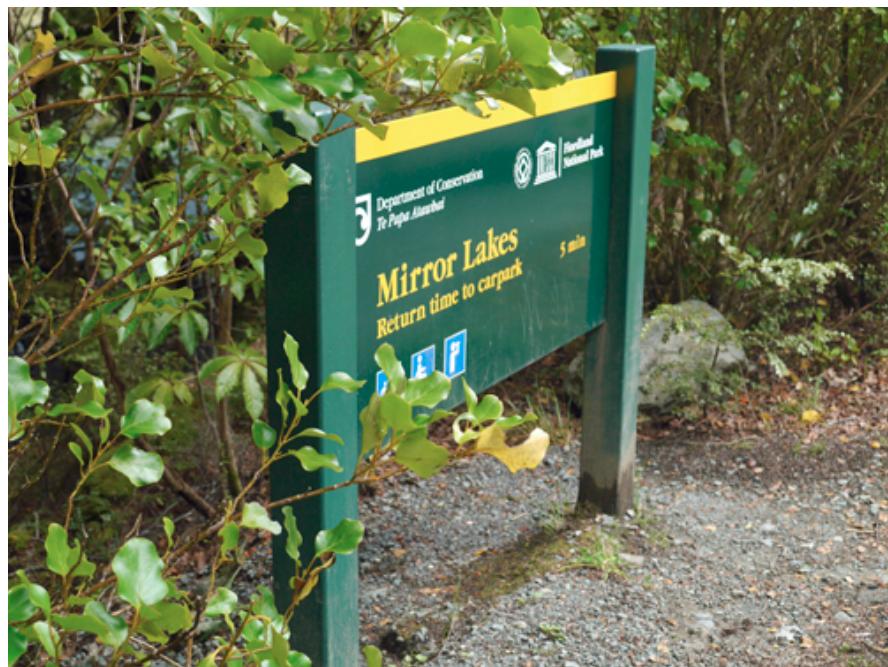


22:07:47 - yukoo - 2 comments

2016-07-26**ニュージーランド (19) ミルフォード・サウンドへ**

旅行前から予約していたミルフォード・サウンドのクルーズに参加すべく、朝7時にホテルのロビーで待ち、クルーズを主催するツアー会社でチェック・インを済ませ、バスに乗り込む。クイーンズタウンからミルフォード・サウンドまではおよそ5時間の長旅。目的地に着くまでも絶景な場所が多々あり、バスの運転手が要所要所で解説をしていた。日本と違ってバスガイドは同乗せず、運転手が話しかけるので、話しながらの運転は怖くないのだろうかと思ったが、ゆったりと安らかな口調だった。途中、テ・アナウという町で休憩したり、景色のよい場所で降りたりしながらの道中。

ミラー・レイクスという湖群。やや曇り空だったのだが、晴天だともう少しきっさり湖が山を映すのであろう。





目的地からそう遠くない場所に氷河が。



05:55:44 - yuko - 2 comments

2016-07-19

ニュージーランド (18) クイーンズタウン

クイーンズタウンのホテルに夕方到着後、周囲をふらっと歩いたが、食事する場所を探す気力もなくホテルのレストランを選ぶ。ワカティプ湖のほとりにあり、レストランから湖が見えた。写真は夫が食べたラザニア。



翌朝は、以前ニュージーランドに住んでいた友人お勧めのヴードゥー・カフェへ。ガイドブックの地図で本店（？）のヴードゥー・カフェの場所を探したら建物が見つからず、同じ通りにある店の定員に訊ねたら、もう一件あると言われ、別の通りにあるヴードゥー・カフェ＆ラーダーを見つけた。朝食セット以外にも軽食がディスプレイに並んでいて、フリッターを頼んだら、とてもおいしかった。



クイーンズタウンにはマウンテン・バイクで下るルートがあり、夫は二人でこれに挑戦したいと考えていたのだが、自転車レンタル屋の店員に訊いたら、かなり急斜面で乗りなれていないと危ないかもと言われ、幾つかルートがあるようなのだがあきらめた。代わりに緩やかな道でサイクリングをしようということになり、湖畔を走った。



00:39:12 - yuko - 2 comments

2016-07-17

ニュージーランド (17) フランツ・ジョセフからクイーンズタウンまで
フランツ・ジョセフを発った日は旅の15日目。それぞれの目的地だけでなく、到達するまでの道程ですばらしい風景に遭遇したが、必ずしも写真撮影ができる場所ばかりではなかった。車を停める場所がない、そんな場所に限ってむき出しの自然を体験できたりする。日が経つと記憶が薄れていくので、旅のほんとうに重要な部分が失われていくようで残念だ。

この辺はゆっくり撮影できた。こんな風景が当たり前のようにある。





次の目的地クイーンズタウンにたどり着く手前の町、カードローナのホテルのバーで一休みする。そのちょうど前、野外のフェンスに計り知れない数のブラジャーが掛かっているのを目撃。車を停めて撮影したかったのだけれど、運転していた夫が疲れていて、バーで一息ついた後もクイーンズタウンにすぐ向かいたいようだったので、あきらめた。バーのカウンターの天井にもブラジャーが掛かっていたので、それだけ写真を撮った。その日の夜、ネットでざっとチェックしたら、乳がんのチャリティー関係だと書かれていたのでなんとなく納得したが、イギリスに戻ってからゆっくり調べたら、日本語のウィキペディアにも解説があり、元々はチャリティーとは関係なかったようだ。[カードローナのブラ・フェンス](#)を参照。





01:04:10 - yuko - 2 comments

2016-07-15**ニュージーランド (16) フランツ・ジョセフ**

南島の西海岸にあるフランツ・ジョセフは、氷河で有名。ホキティ力を早朝後にし、フランツ・ジェセフのホテルに到着後、昼食を済ませてから氷河を眺められる場所までシダや岩場に囲まれた道を歩いていった。入口の駐車場から30分ほどかかったと思う。下の看板が示すように、氷河は年々後退しているらしい。ここに来て、地理をちゃんと勉強していればとまたもや後悔。

翌日はヘリコプターに乗って直接氷河に降りるツアーに予約していたのだが、天候不良でキャンセルとなってしまった。ツアー会社がキャンセルを決定したときまだ雨は降っていなかったのだが、安全第一なのだろう。今回の旅行でいちばん残念な経験となったが、夫にとっては運転し通しの日々だったので、疲れを癒す意味ではよかったです。







00:13:30 - yukoo - 2 comments

2016-07-13**ニュージーランド (15) ホキティカ**

車での長旅の後、ホキティカという町に到着。ここは次の目的地に至るまでの一休みの場所なので、一泊のみ。砂浜には木を使った芸術作品が点在している。木肌の色から推察すると、流木かもしれない。最初のはやっとこさ、HOKITIKAと読める。







04:13:29 - yukoo - 2 comments

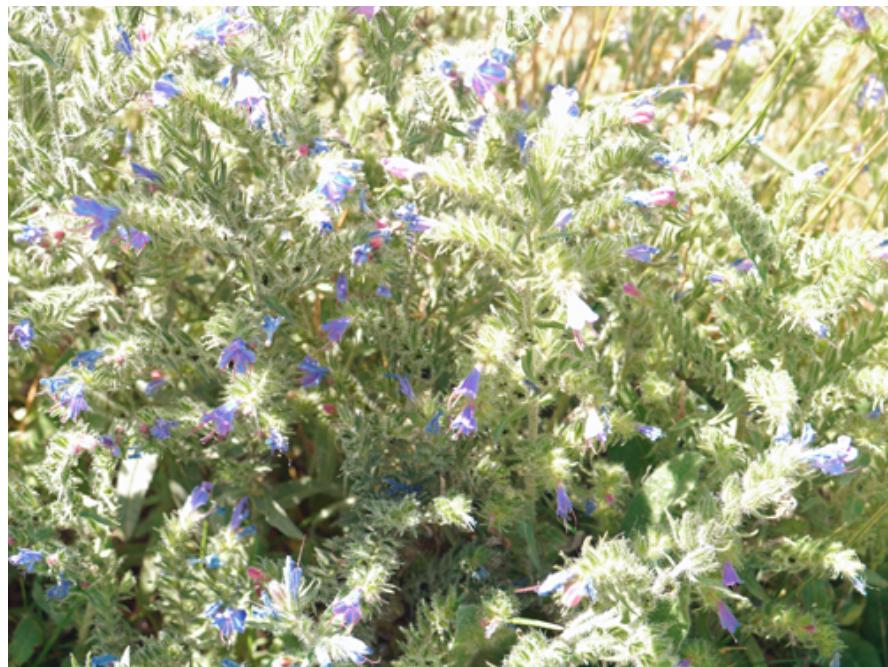
2016-07-11

ニュージーランド (14) カイコウラからホキティカまで
カイコウラを出発する日、浜辺の画像を見る。題名が見当たらなかったのだが、木
彫りの男女である。



カイコウラからホキティカに向かう途中、カッスル・ヒルという場所に車を停める。自然の石灰岩が並んでいる。どうしてこんなふうな形になったのか、たしか説明書きがあったと思うのだが、長旅の疲れでちゃんと読まなかった。地理の勉強をはじめにやっていれば、こういうことにもピンとくるのだろう。



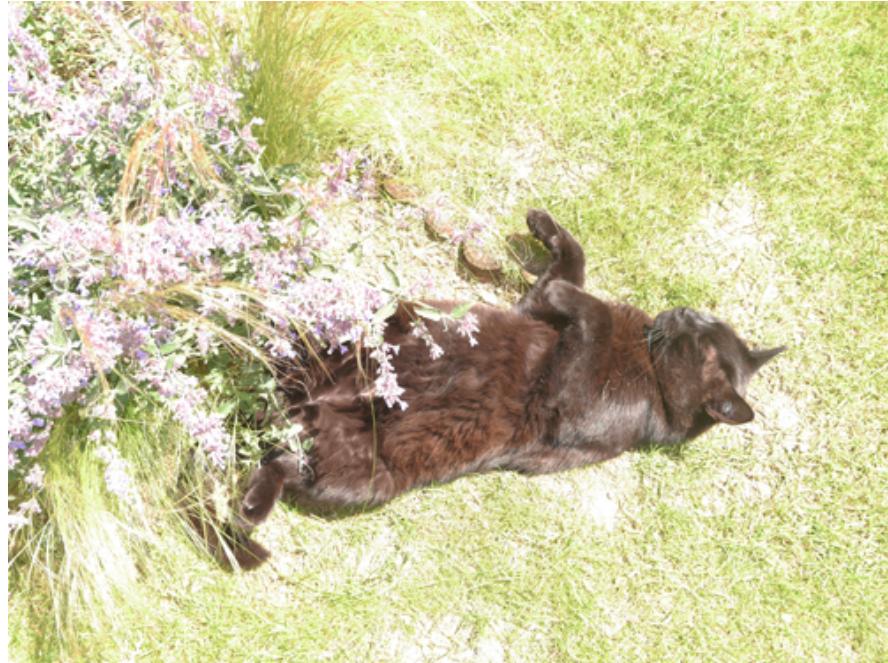


05:30:12 - yukoo - 2 comments

2016-07-06

至福のとき

今日はよいお天気だった。猫が喜ぶと聞いたので、二年ほど前に庭にキャットミントを植えたのだが、思ったほどよりつかないなあなんて思っていた。しかし今日はにおいをかぎながら嬉しそうにしていて、仕舞いにはおなかを出して寝転んでいた。



04:52:10 - **yuko** - 2 comments

2016-07-03

ニュージーランド (13) カイコウラでホエールウォッチング

カイコウラはホエールウォッチングの名所として知られていて、鯨が現れる確率も高い。この日は地元のホエールウォッチング・ツアーに参加した。

お天気にも恵まれて、鯨の生息地に着くまで波が高くなり時々船が揺れたが、ホエールウォッチング中は穏やかだった。この辺りに生息しているのはマッコウクジラ (sperm whale)。背中と尾っぽを見せてくれる。その後イルカの生息地に向かうと、これでもかというほどイルカが船の横を泳いでいく。まるで人間を怖がらないのはなぜだろうか。







05:29:08 - **yuko** - 2 comments